

## 上野総合市民病院だより

### ◆安心・安楽・安全な手術を提供する取り組み

当院では、主に消化管外科・肝胆膵外科・乳腺外科・整形外科の手術を行っています。専門性の高い先進的な治療を、身体への負担をより少なく、効率的に提供できる機器を導入しています。

また、患者さんに安心して手術を受けていただけるように、手術前に担当看護師が手術室入室からの流れを説明します。手術に対する不安や疑問を伺い、手術室での対応を事前に説明させていただくことで、不安の軽減に努めています。手術中、患者さんは長時間同じ姿勢で動くことができないので、時間ごとに無理のない体位の確認を行うことで、安楽な体位保持に努め、循環障害や神経障害の予防に取り組んでいます。また、スタッフも手術中の体位を体験するなど、患者さんの気持ちになってより安楽なケアを追求しています。手術後は、身体の回復状態や手術室で感じたことなどを聞かせていただき、看護の質を高めています。

当院は二次救急医療を担っていて、緊急手術にも対応しています。安全に手術を受けていただけるよう、緊急時のシミュレーションを実施し、看護実践力やチームの連携を強化しています。

医師、麻酔科医、看護師、臨床工学技士などの多職種が連携し、今後も、より安心・安楽・安全な手術が提供できるように取り組みます。

(手術室看護師長 平地 文子)



勉強会の様子

## 明日に向かって～差別をなくしていくために～

### ジェンダー平等社会に向けて - 消防総務課 -

「消防士」と聞くと、多くの方が「男性」をイメージするのではないのでしょうか。このような無意識の思い込みや偏見を「アンコンシャス・バイアス」と呼び、性別によって仕事や役割を決めつける思い込みは「ジェンダーバイアス」と言います。

「女性は力仕事ができない」とか、「男性の方が冷静で災害活動に向いている」といった考えが、これまで女性の消防士の活躍を妨げてきたのではないのでしょうか。令和6年度時点で、全国の女性の消防士は6,124人、全体に占める比率は3.7%です。同様に伊賀市消防本部では6人で3.4%と、男性に比べれば少数ですが、年々増加しています。

また、総務省消防庁はこれまで、消防士に占める女性の割合を5%に引き上げる目標を掲げてきました。しかし、他の公安系職種（警察や自衛隊など）

と比較すると割合が低いのが現状です。そこで、令和13年度までに10%とするよう、目標値の引き上げが行われました。

消防行政への女性の参画は、多様な視点を取り入れた組織文化の醸成につながり、組織全体の強化と住民サービスの向上に貢献します。伊賀市では、令和8年度までに採用試験の受験者に占める女性の割合を、10%にする独自目標を掲げています。

「ジェンダーバイアス」は無意識の偏見であることを自覚し、「男性だから」「女性だから」と決めつけるのではなく、個人の能力や適性に基づいて仕事や役割を判断することが重要です。

誰もがなりたい職業で活躍できる社会の実現に向けて、消防本部でも取り組みを進めていきます。

■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9641 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ



## 伊賀の歴史余話 46

### 伊賀鉄道の電化100年

令和4年に伊賀鉄道の全線開通100周年を記念して、記念列車の運行やパネル展が開催されたことは記憶に新しいと思います。

そして、今年には伊賀鉄道電化100周年を迎えます。大正11(1922)年に全線開通した伊賀鉄道はその後、さらなる輸送力の増強と旅客の快適さを求め、鉄道の電化をめざしました。電化の動きは明治後期から全国各地であったものの、地方都市の私鉄においては、非常に先駆的な試みでした。

大正15(1926)年5月9日に電化のための電気工事を完了した伊賀鉄道は、24日に鉄道省より電車運転の認可が下り、25日から運転を開始しました。この電化に伴い伊賀鉄道では、新たに電動客車6輛と電気機関車2輛を導入し、事前の運転教習は大阪市電の運転士を招いて実施されました。また、猪田道などの駅のホームが整備され、市部・上林・庄田に停留場が新設されました。

電化のために重要な変電所は、阿保か丸山に建設することが検討され、最終的に丸山に設置されまし

た。この丸山変電所には、250キロワットの発電機3台(1台予備)が設置され、伊賀鉄道へと電力を送りました。

伊賀鉄道の「大正15年度下半期営業報告書」によると、電化直後の6月から11月における一日平均の旅客数は3,013人でした。電化の開始当初は遅延も発生したようですが、その後は徐々に運行も軌道に乗っていったようです。

文化財課歴史資料係 ☎/FAX 41-2271



▲丸山変電所(伊賀鉄道電化記念絵葉書より)



「イガプロ」とは、「イガ」と「プロダクト(製品)」、「プロフェッショナル(専門家)」などさまざまな「プロ」を掛け合わせた造語です。

### 日本精工硝子株式会社

1895(明治28)年の創業から130年。伊賀の地に工場を構えて約40年が経ちました。

私たちは長年、化粧品やお酒、食品・調味料などのガラスびんを製造しています。これからも、高品質で透明感・デザイン性に優れた「びんづくり」を続けていきます。

SDGsの取り組みや地球環境に向き合うことが必須な現代社会では、ガラスは循環型社会に適した環境にやさしい天然素材です。私たちはこの魅力的なガラスを、これまで培ってきた技術で商品にさらなる価値を提供します。透明なガラスびんは、日常のあらゆるシーンに彩りを与え潤いをもたらします。それが私たちの喜びであり、豊かな未来に継いでいけると考えています。

大阪市中央区伏見町(北浜)にショップ&ギャラリー「GLASSOWA」も設けていますので、ぜひお越しください。

#### ◆若手社員のコメント

2025年に入社し、金型の保全を担当しています。ガラスびんの知識もなく工場も未経験でしたが、先輩がーから優しく教えてくださったおかげで少しずつ仕事に自信が持てるようになってきました。

作業を進めるたびに金型の奥深さを知り、ガラスびん作りの面白さを感じながら日々取り組んでいます。

新しいことに挑戦したい人は、ぜひ私たちと一緒に楽しく働いてみませんか。(金型グループ 本間 萌)



#### ◆会社概要

【設立】1985(明治28)年9月

【所在地】

○本社：大阪府大阪市北区長柄西1-2-25

○工場：伊賀市甲野1018

【従業員数】130人

【事業概要】化粧品用びん、酒用びん、食品・調味料用びん作成

【連絡先】○本社：☎ 06-6351-1604

○工場：☎ 46-1236

【グループ会社】5社

【従業員数(グループ全体)】

約270人



<https://www.osg-co.jp>

問 産業政策課 ☎ 22-9727 FAX 22-9695